

探索と恋心



「なあ、その依頼受けるんなら一緒に行くよー!」

酒場にて掲示された依頼書の二つを手にした時、馴染み深い声にそう呼びかけられた



声の主はぴったりのとした濃紺の衣服に身を包み、短剣や小物入れを携えた女
彼女の名は「イリス」 数年前から頻繁に探索を共にする仲だ

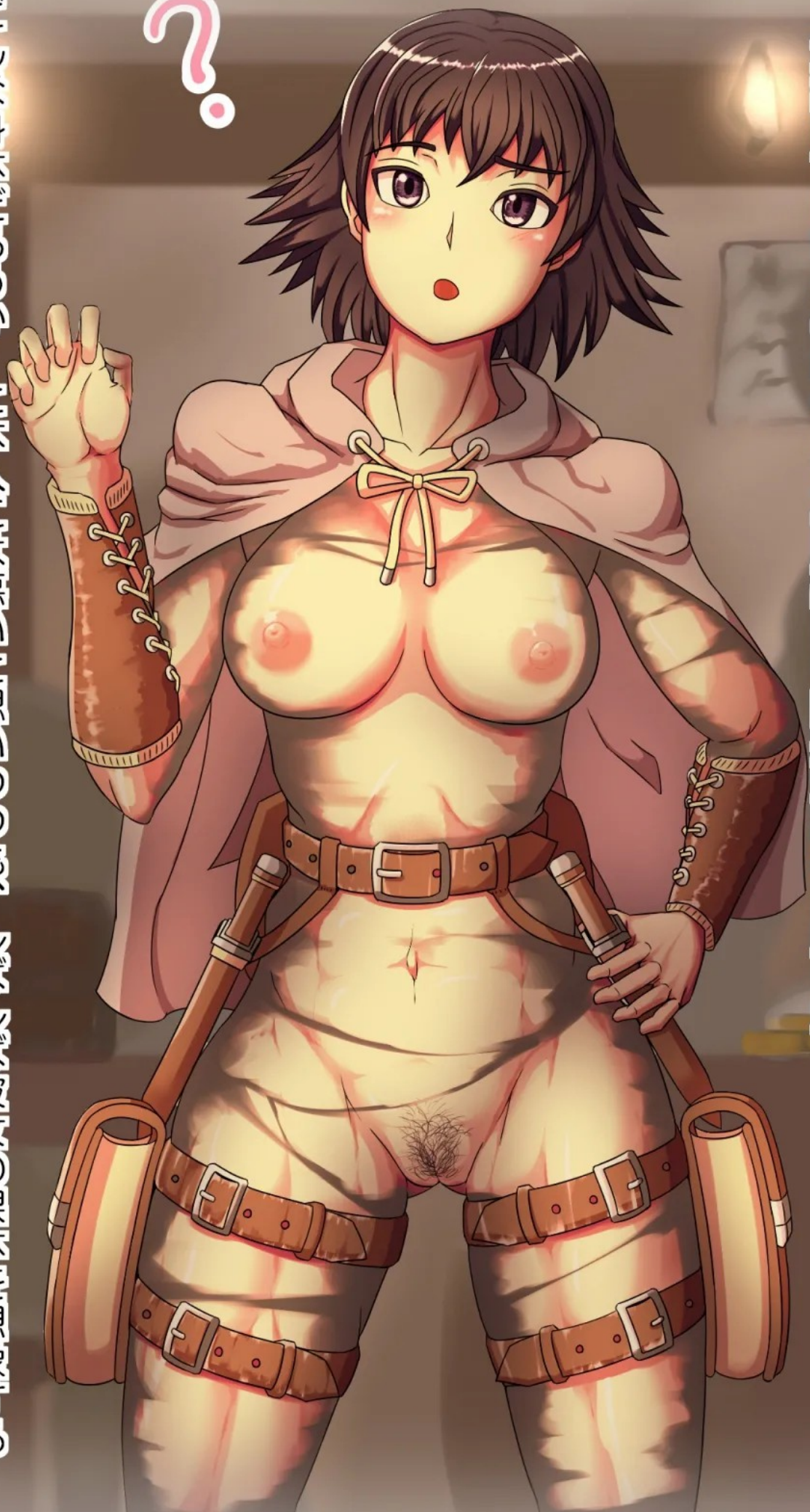
依頼内容は「遺跡に棲みついた魔物の駆除」 大抵遺跡には危険な罠が多い
イリスは畏に精通しているため断る理由もない俺は彼女の頼みを受け入れた
「ああ、一緒に来てくれるならこっちも助かる 畏の解除は頼んだぞ」

「任せな！その代わりに、戦いになったら頼りなせてもらうよな」

長い付き合いだお互いの役割もよく分かっている彼女の「よは仲間」として信頼して
ただ、最近ではそれ以上の関係になりたいという感情が心を占めてしま...



出会ったときは小さな子供だったが、今では心身ともに立派な一人の女だ
正直なところ成長した身体を意識してしまつて面と向かつて話しづらい
…意識してしまうのはイリスの服装にも問題があると思うが



どんな身体だろうか…と本人には悪いと思いつつも、しばしば彼女の裸体を想像する
ぴったりとした服の上からでもわかる胸や乳首、恥丘のふくらみ…
とつくに陰毛も生えたことだろう想像すればするほど頭の中で魅力的な身体が鮮明に…

「アラン！ どうしたの？ ポーツとしちゃって」

「！ああ、悪い少し考え事をな！」

名前を呼ばれて我に返った…劣情を催したことに罪悪感を感じる



だがそうした感情を抜きにしても、やはり彼女を欲する気持ちは変わらない

！今まで引き伸ばしすぎたくらいだそろそろこの気持ちにも決着をつけよう

この探索を終えたらイリスに自分の気持ちを伝えると心に決め、彼女と共に酒場を出た







準備を終えると早速遺跡へと乗り込んだ他に仲間を探すか考えたが
閉所の探索であることを考慮して、結局俺とイリスの二人だけで行った
そして遺跡に入って間もなく、最初に遭遇した魔物は『スライム』

スライムは炎を嫌うので松明で倒していった



「盾で体を守ればよまとわりつかれたら厄介だ」

「分かってるって！こんなの余裕だよ！」

確かにこの程度の魔物ならばどうとどういこうとは無いしかし数が多かった

イリスが最後のスライムを燃やした頃には、お互いそれなりに消耗していた

「あゝさすがにちよつと疲れたーちよつと休憩に！」

と、イリスがすべて言い終わらぬうちに事は起きた



「…！イリス！」
「えっ？…？あ、いやっ！」

全滅させたと思った油断から、イリスは別個体の奇襲に反応できなかつた

彼女の体に飛びついたのは赤いスライム緑の個体よりも強力な酸性の粘液で敵を攻撃するこのままではイリスの身が危ない





「イリスじつとしてる」「えっ何で…って、きゃっ…?」
俺はイリスの服を破き、その服ごとスライムを引きはがして松明で焼いた
イリスに密着されている以上攻撃できないため、咄嗟の判断だった
炎のついたスライムはあっという間に燃え尽きた

「…よし何とかなったな」と「息つく間イリスから弱々しげい声で

「…あ、えっと…ア…アラン…」と呼びかけられた

そう服を破いたのは正しい判断だったと言えるただイリスの声音の異変に
気付かず、安易に振り向いたのは軽率だったかもしれない

「ん?悪いもしや引きはがしたときに怪我でもつけて…」

「へっ？！待ってー！今は振り向かーなっ、あっー！」



ん

「なっー」

……イリスの胸があらわになっていた当たり前だ俺が服を破いたのだから

あ……

え……

彼女のことを思うならば、すぐに目をそらすべきだったが……



目が離せなかった普段から身体のラインが丸わかりの服を見慣れてるからと云って



特に乳首に関しては…何と云うか…かなり性的な印象だった



しかもイリスの体臭もまた強烈だったさっきまで激しく動き回っていたからだろう



ムムム

汗の臭い！香水とかではない女の身体が本来持つ、甘酸っぱい臭気が漂っている

「ア、アラン…？ その…」 「…っ！ す、すまんっ」

声を掛けられて、ふらふらと目をそらしたそれと同時に罪悪感があふれてくる



「…本当にすまん… 無遠慮にしているのよ…」

「あっ、いやそのっ… お、怒ってはいないから謝らなくても… だっ、大丈夫だって！」

「ほ、ほら咄嗟のことだったし、何よりのアランのおかげで私は助かったんだから！」
「逆に気を使わせてしまっでさるよんで、自分が情けなくなってる」

「だからそんなに「はいはい」ならんで欲うらうら、そを「うん」の……」

「っ
っ」



「自身、も別に嫌とか、そんなことには……」

……それは……



「イリス？」 「あっ！ いや！ なっ、 何でもない！ き、 気にしないでねー？」
「……」 「あ、 あっえつと…… 予備の服持ってるから、 き、 着替えてきちやうねー！」



ム

逃げるように物陰へと隠れるイリス先ほどの言葉がまだ気がかりだが……
……あれも……俺に気を使ってるの言葉だろっ……そう、 恐らくは……そうだと思う

おまけ



漫画「探索と恋心」はpixivでの投稿は中止し、
現在CG集として販売することを目指して作成中です。

中途半端で申し訳ございません！

別投稿にていくつかサンプルを載せていますので、
よろしければ見ていってください。